

九州みなと便り (12月号)

●志布志港

海上自衛隊の第1掃海隊が志布志港に寄港しました

【寄稿：志布志港湾事務所】

12月3日から5日にかけて、海上自衛隊所属の第1掃海隊（掃海母艦「うらが」、掃海艦「はちじょう」、掃海艇「はつしま」の3隻（横須賀所属））が志布志港若浜地区に寄港しました。今回の寄港は、11月下旬に宮崎県日向灘沖で実施された「平成28年度機雷戦訓練」に参加した後の国内各地での一般公開の一環です。

掃海艇とは、我が国周辺海域における機雷の除去を主な任務とした艦艇で、また近年では大型掃海母艦の特性を活かした災害時の物資補給や、掃海艇等の機動性をういた捜索救援に従事しています。

志布志港には3日に入港、5日に出港し、間の3日から4日の2日間に一般公開されました。この一般公開では、志布志市民をはじめとした鹿児島県民や九州各県から来場された多くの方々が、掃海母艦「うらが」及び掃海艇「はつしま」に乗艦（約3千名）し、船内の装備品の見学や任務内容の説明を受けました。

艦船の周辺では、自衛隊グッズの販売や自衛隊車両の展示ブースが設置されました。またJR志布志駅前広場で開催された「ぼっぼマルシェ」（偶数月第1日曜日に地元商店街の方々が出店する市場）にも、自衛隊鹿児島地方協力本部マスコット（リックン、まもる君）が登場し、多くの来場者で賑う中、お子様連れの家族と記念写真に収まるなど、双方のイベントを盛り上げてくれました。

志布志港では、今後も港湾を舞台とした「賑わい」や「憩い」の機会を創出し、志布志港とともに地元「志布志市」の魅力発信に努めて参ります。

★「掃海隊」豆知識

1. 掃海隊の任務は、港湾や航路内に敷設された機雷や水中爆発物を取り除き、海上交通の安全を守ることです。また東日本大震災（平成23年3月）の際には、機雷戦部隊の全艦艇が行方不明者の捜索や、孤立した地区への物資輸送等の被災者支援を行いました。

2. 掃海母艦と掃海艇

掃海母艦とは、掃海隊群の司令機能を担うとともに、自らが率いる他の掃海艇への燃料や物資の補給を行うことを主任務とする艦艇です。

3. 自衛艦の名称

自衛艦の名称は、天象・気象、山岳、河川、名所・旧跡等から採用しており、掃海母艦は水道・海峡名から命名することとされています。

今回志布志港に寄港した掃海母艦「うらが」は東京湾の浦賀水道にちなんで命名されました。

（出典）掃海隊群ホームページ（<http://www.mod.go.jp/msdf/mf/about/info/>）



掃海母艦「うらが」(船長141m)



掃海艇「はつしま」(船長60m)



「うらが」(左)と「掃海艦はちじょう」(右)の大きさ



入港時の歓迎式典



船橋(ブリッジ)の見学



来場者と写真に収まる「リックン」(3等陸曹)



「ぼっぼマルシェ」に自衛隊マスコット登場



自衛隊車両の展示(何人乗っても大丈夫)